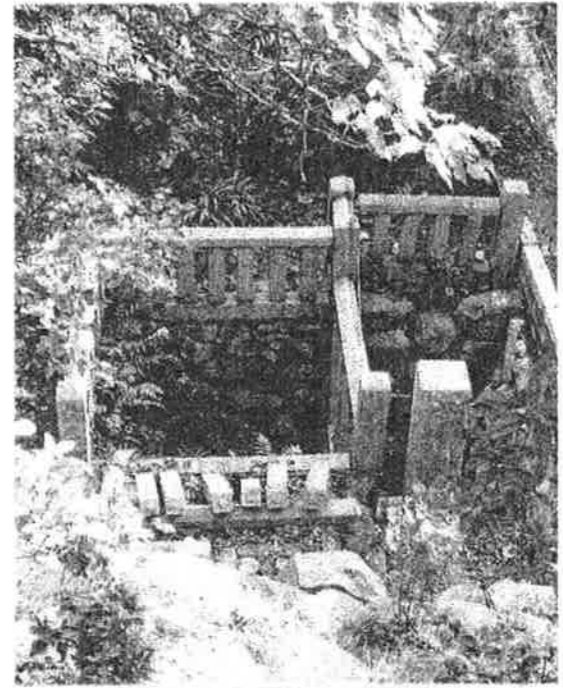


# おが町にも歴史あり

## 知られざる大阪

天王寺七名水の残りを探 「安居の清水」。飲めば子して、さらに歩く。天神坂 どものかんの虫が収まる。下の安居神社にあったのが「いわれ」かんしずめの井」

とも呼ばれた。社務所脇に、一時、水が出てたんで回り込むと、猫が2匹、こすかーとのこと。荒れた井ちりをにらんで走り出てきた。構わず下方をのぞきこめば、草木に囲まれて木の柵と石組みが残る。まったくかたがたしているように見えるが、中島一照宮司(67)に尋ねると、「4、5年前にボランティアのかたがて奉納したいと思ってるに4、5分ほど掘ってもらったんですが……」と宮司。



### わき水再び 願い



① 草木の中に石組みが残る「安居の清水」  
② 復活した金龍水



## 天王寺七名水 大阪市天王寺区 143

# かんしずめ「安居の清水」

明智光秀丹波をひろめ

ひろめ丹波の福知山 ドッコイセ ドッコイセ チョイチ ヨイノ チョイノ チョイノ チョイノ……

これは、丹波の京と呼ばれた福知山地方の盆踊り唄「福知山音頭」のひとつ。この地を領した明智光秀をしのんで歌ったものと伝わります。その三女として生まれた細川ガラシャが、本能寺の変後、2年間幽閉された場所が京丹後にございます。

3週にわたっての掲載となった京丹後編の取材には、舞鶴支局の塩田記者が同行して下さいました。特にガラシャ隠棲地は、かなり険しき道を走るといので、塩田さんの運転にてご案内をいただいたのです。

京都府京丹後市

## 細川ガラシャ (京丹後編・後編)

いるので想像できるのです。

嵐なお暗き幽谷を越え、山の上

に建つガラシャ隠棲地の碑に書くと、環境的にも親しみがわいてきました。お参りを済ませるや、「この道をきょしゅうか」

らに歩いて行くと、小野小町の墓がありますよ」と塩田記者。絶世の美女のお墓なら行ってみたい。「それくらいのことです。距離です?」「9キロほど」

細川ガラシャ隠棲地 天正10(1582)年の本能寺の変で、細川ガラシャ(1563~1600)の夫、忠興は羽柴秀吉軍についたため、ガラシャの実家と婚家は敵対関係に、自身は「逆臣の娘」になってしまう。忠興は丹後の山中にガラシャを隔離、幽閉、秀吉に許されるまで2年間、この地でひっそりと暮らしたとされる。



ガラシャが壮絶な死をとげた大阪の越中井を訪ねたこと(昨年2月14日付掲載)を思い出しました。塩田敏夫撮影

河内家菊丸丸 1963年、大阪・八尾市生まれ。今秋限りで新聞(しんもん) 読み河内音頭家元の名を返上し、伝統河内音頭継承者として再出発した。大阪芸大客員教授。

## 阪田三吉が眼病治療

# 泰聖寺・金龍水 一足先に復活

一足先に復活したのは「金龍水」だ。清水寺の少し北の泰聖寺にあり、その昔は茶の湯にも使われたほどの清水だったといことがこの資料にも「かた」とある。

しかし、兎れば井戸にはつるべが掘えられ、のぞくと底に水面が光っているではないか。浅野社副住職

浅野副住職も、安居神社の中島宮司も、「昭和40年代の地下鉄谷町線の工事で、水位下がって水が出なくなりました」と口にした。地下鉄工事が、上町台地の地下水脈になんらかの影響を及ぼしたようだ。

上町台地の水にまつわる話を二つばかり。JR天王寺駅では、昔から今に至るまで、地下水が使われている。駅裏口の男子トイレの小便器に、すーっと流れているのがそれ。隣の天王寺ミオのスパリングラーもそうだ。1日の湧出量は130立方メートル。なんでも1889(明治22)年、当時の大阪鉄道が駅舎を建てた際、たまたま地下水脈の真上に当たったそうだ。これからは小便も心してせねば。

もう一つは酒の話。上町台地のわき水を使った日本酒があるのだ。天王寺の酒蔵さんたちが15年前から2種類を造っている。四天王寺の水を原酒にまぜる割の水に使う「天水」と、谷町9丁目の老舗の花屋さんにわき水を使う「上町水」。

かつての名水を思いながら一献やるのも粋なものだ。【松井宏編】

泰聖寺は眼病祈願で知られる京都・豊岡市の柳谷観音の別院。伶人町に住んでいた将棋の阪田三吉が1922(大正11)年、白内障を患い、三吉の治癒を祈

# 情 慕 標 墓 の 丸 水 菊

道中「すい田舎(しよ)とわっしやるも、南山城なる京都府唯一の村に住んでいる私にとっては日常の風景。この辺りは冬になると寒いのですよ。一度、友人の家に泊まりに来ましたが、想像できないくらい冷え込んでおりました。のお言葉にも、大阪市内と10度くらい違いがある南山城では、冬対策として強力な暖房器具を購入し、窓は二重に改装するなど、特に気を使って

出会いみつめる

おおさが

ふるさとナニ